

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業—CIS 活動報告(インドネシア)

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業運営委員会 委員 菅哲男
接合科学研究所 客員教授

2016年度1ヶ国目のCIS(カップリングインターンシップ)が、インドネシアで8月21日-9月3日の期間に開催されました。大阪大学 外国語学部2名、工学研究科2名、インドネシア大 人文学部2名、工学部2名の計8名の学生が参加しました。

現地では2日間の事前研修をインドネシア大(デポック)で行い、日本企業の理念やコミュニケーションについての研修(講師:言語文化研究科の原准教授、藤原特任助教)、溶接基礎知識の教育(VTR)、問題解決の実習などを学生は受けました。24日からの休日を除く5日間は、セランにあるチレゴン・ファブリーケーターズ(PT.CF)社(発電用ボイラ製造メーカー、IHIの子会社)で企業実習を実施しました。実習としては、会社説明(組織、業務内容)、安全講習、溶接講習、品質管理・工程管理などの説明を受けると共に、工場見学(ボイラ・プラント、コンテナクレーンの製造)や、PT.CFの経営者や現場ス

タッフとの面談を行いました。また、8月30日には、PT.IHI Gasification Indonesia(カラワンの)のガス化炉も見学しました。学生は、実習テーマの「コミュニケーションの課題と対策」(特に、病欠と教育に関する課題)について、全員で協力して取り組みました。

最終日の9月2日にはインドネシア大で、学生は実習テーマの検討結果について発表しました。最終報告会にはPT.CFの永吉社長、松浦部長、インドネシア大学のDodi ディレクター(Collaborative Affairs)、Winarto 教授、大阪大学の菅客員教授、原准教授、藤原特任助教ら計20名の参加があり、活発な質疑応答が行われました。PT.CFよりは、有益な提案がされており今後の参考になるとのコメントがありました。

学生は、日系現地企業の「ものづくり現場」を体験すると共に、コミュニケーションや異文化理解の重要性などを会得しており、大変有意義な活動でした。

